

行政視察等報告書

令和 元年 10月 9日

境港市議会
議長 柗 康弘 様

会派名 公明党境港市議団
代表者 田口 俊介



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	令和 元年 10月 3日 (木)
2 視察等先 及び内容	令和 元年10月 3日 (木) ☆鳥取県西伯郡南部町下中谷1528 地域共生社会実現拠点 「いくらの郷 (さと)」 ・ニート・引きこもり者の社会復帰支援と中山間地域活性化に ついて
3 視察等議員	田口 俊介・足田法行
4 総 経 費	合計 (2名) 1,000 円 (一人当たり 500 円) ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

内容：＜施設訪問視察＞

(1) 地域共生社会実現拠点 「いくらの郷（さと）」

＜ニート・引きこもり者の社会復帰支援と中山間地域活性化について＞

【概要】『いくらの郷』は、南部町前町長で現在、社会福祉法人 祥和会理事長である坂本昭文氏が町長勇退後、地域社会の中で生きにくさを抱える若者の社会復帰に繋がる場所をつくりたい…という強い思いから、町社協と町内にあるふたつの社会福祉法人が共同で立ち上げた施設である。ニート・引きこもり者の支援は「相談窓口」「相談支援」の取り組みは進んでいるものの、その先の「社会復帰」「就労」へつながる拠点がこれまでなかったことから、当該施設の整備に取り組んだ。

「いくらの郷」は、リノベーションした築120年の古民家を活動拠点として、利用者はこの施設に通いながら農業や林業体験など様々な共同作業を行い、こうした体験を通じて利用者の自信とやる気を引き出し社会参加を支援しています。

施設の財政面については、施設整備費は内閣府の共生社会実現拠点整備助成金を活用。運営費については、南部町社会福祉協議会の社会福祉充実残高と、社会福祉法人 伯耆の国の地域貢献事業費を充てている。

この施設の最大の特徴は、単に引きこもり者の支援を目的にするのではなく、同時に中山間地域の地域活性化につなげるために、「小規模農業の振興」「地域産品の開発と販路確保」「人材開拓と育成」「CCRCの促進」など、様々な施策に「横串」を入れながら活動を展開しているところで、地域住民の中に施設が浸透している様子を伺うことができた。

今後の課題として、施設長でもある、坂本昭文前町長からは今後5年を目途に県内の複数の自治体でこのような拠点施設を開設してもらい、ネットワーク化を図ることで県や国の支援のもと安定的な運営を目指したい。ついてはぜひ、境港市でも取り組んでいただきたいと力強く話をされました。

【所感】開設当初より、注目をしていた「いくらの郷」にようやく訪問することができました。この施設の開設にあたっては、坂本前町長の並々ならぬ熱意とニート・引きこもり者への慈愛あふれる思いが込められていることをあらためて感じることができました。

「相談支援」から、「社会復帰・就労」へ。『この施設は「学校」や「塾」ではないし、我々がやっているのは「福祉サービス」ではない。この場所をステップとして、社会復帰し就労して「納税者」に…。それを支援する拠点』との、言葉が心に残りました。

本市でも「境港市」型の事業展開を考えるヒントになりました。

報告者 : 田口 俊介